



早いもので米中核同時テロから8年が過ぎた。この2001年はちょうどサンフランシスコ講和条約50周年で、私はそれを記念する米大陸横断の草の根交流キャラバンに参加していた。

9月8日、新宿の東京オペラシティでの記念式典に出席した後、皆で急いで成田空港に向かい、太平洋を横断した。日付変更線を越えたため、サンフランシスコに着いたら同じ9月8日の朝だ。ホテルで少し休んだ後、50年前に講和条約を締結した由緒あるオペラハウスでの記念式典に参列した。

講和会議の全権随員を務めた宮沢喜一氏が、流暢な英語で50年前の秘話を披露してくれた。吉田茂首相が演説を巻紙にしたためて読みたいと言い出したため、あわてて中華街に巻紙を

テロ後の世界一変

大統領が別人なら……

いに行き、手分けして清書した原稿を糊で張り合わせたので、演説の途中で糊がはがれないかとひやひやした、という内容だったと記憶する。

山内 直人



大阪大国際公共政策研究科教授

州フェニックス。3日目がちょうど9月11日で、朝のテレビで世界を揺るがす事件を知った。あわてて日本に電話し家族に無事を知らせることができたが、その5分後に再度電話したらもうつながらなくなっていた。世界貿易センタービルの崩落をテレビで見ながら呆然とするしかなかった。

すべての航空便が欠航になり、キャラバンも中止を余儀なくされた。とにかく陸路で日本行きの間があるロサンゼルス空港まで行くことになり、レンタカーで砂漠の中を10時間走った。ようやく空港にたどり着いたら、千人を

ずつ15チームに分かれ、1週間後にワシントンで再会することを約束して全米各地に散った。私は、富士銀行会長であった橋本徹さん、政治学者の村田晃嗣さんと一緒にした。

われわれの最初の訪問地はアリゾナ

超えるキャンセル待ちの列ができていくという。仕方なく空港近くのホテルで3日間待機して、航空券を手に入れ、ようやく日本に帰り着いた。

あの時、これから世界が大きく変わるのではないかと、という漠然とした予

ふるさと伝言

感があった。実際その後、世界は大きく変わっていった。ブッシュ政権のアメリカは、「テロとの戦い」という錦の御旗の下にアフガニスタンやイラクへ侵攻した。歴史上のイフを弄ぶのは禁物だが、もし前年の大統領選挙で大接戦を演じたアル・ゴア候補が大統領になっていたなら、現代史は全く違ったものになっていたのではないかと考えたことがその後何度もあった。

このキャラバンを主催したのは、日本国際交流センター理事長の山本正さん。民間国際交流の草分け的存在である。バブル崩壊後の1990年代後半から、苦勞して3億円の寄付金を集めて実現にこぎつけたという。

キャラバンは途中で中止になったけれど、たまたま歴史的瞬間に居合わせ、非常時におけるアメリカ人の愛国心や自己防衛意識、さらには助け合いやボランティアの精神に触れることができた。つかの間の国際交流だったが、9月になると、このときの特異な体験を懐かしく思い出す。

(やまうち・なおと、松山市出身)